

基本目標別達成状況総括表

基本目標1	
数値目標	<p>○転出超過数 320人(H30)→189人(R3)→144人(R6) ※期間は各年10月1日～翌年9月30日</p> <p>○人口に対する個人の市民税の納税義務者数の割合 36.5%(H30)→37.4%(R3)→36.5%(R6)</p>
数値目標に対する総合評価	<p>転出超過数 ○令和3年度は189人となっており、前年度(213人)と比較して24人の減となっている。 ○要因として、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響から人の動きが少なかったことが考えられる。</p> <p>人口に対する個人の市民税の納税義務者数の割合 ○前年度(37.7%)と比較して割合は横ばいで推移している。 ○要因として、納税義務者数及び人口ともに前年度から減少したものの、前年度の個人の市民税の納税義務者数(9,307人)に対する人口(R2.9:24,676人)の割合と、令和3年度の個人の市民税の納税義務者数(9,049人)に対する人口(R3.9:24,190人)の割合が近似していたことによるものである。</p>

仕事づくり				
①魅力ある雇用の確保				
	(KPI)	H30	現在値	R6
1	企業誘致に伴う新規雇用者数【累計】	4人(H29実績)	1人(R3累計)	30人(R2-R6累計)
2	竹原市就職ガイダンス参加者のうち市内企業への就職者数【単年】	9人	0人	20人
3	ふるさと就職登録希望者数	71人	110人	150人
評価(KPIの達成度、今後の対策など)				
<p>○令和3年度の企業誘致に伴う新規雇用者数は1人であり、工業・流通団地全体の就業者数は令和2年度末の176人に対し、令和3年度末は183人と増加している。 ○引き続き竹原市へ誘致を考えている企業等への雇用奨励金等助成制度の周知を行い、企業誘致及び雇用の促進を目指す。</p> <p>○R3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため就職ガイダンスが開催できなかった。 ○今後は状況に応じてオンライン開催も検討する。また、SNS等の活用を強化し、ふるさと就職登録者を募るとともに、登録者に就職ガイダンス案内を送付し、市内事業所への就職に繋がるよう取り組む。</p> <p>○令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため就職ガイダンスが開催できなかったものの、市内高等学校に生徒のふるさと就職登録へ協力していただいたことで、登録者は増加した。 ○今後はSNSを活用した情報発信を強化し、登録者を募るとともに、登録者に就職ガイダンス案内を送付し、市内事業所への就職に繋がるよう取り組む。</p>				
○②創業の促進				
	(KPI)	H30	現在値	R6
1	新規創業者数【累計】	37人(H30実績)	39人(R3累計)	175人(R2-R6累計)
評価(KPIの達成度、今後の対策など)				
<p>○空き店舗等改修補助事業について、令和3年度は2件の交付決定(申請は3件)となり、令和2年度実績(申請0件)と比べて増加となった。 ○引き続き創業者の支援を行うとともに、各支援機関と連携をとりながら、創業の促進に取り組む。</p>				
○③地域産業の振興				
	(KPI)	H30	現在値	R6
1	新規就農者数+新規農業従事者数【累計】	1人	8人(R3累計)	12人(R2-R6累計)
2	資本金等の金額が1億円以下の法人数	605社	607社(R2実績)	595社
評価(KPIの達成度、今後の対策など)				
<p>○農福連携の実施を目指し、社会福祉法人宗越園と株式会社八天堂とが竹原市内の農地を活用する取組を実施するため、新規就農者1者及び新規農業従事者2人の増加につながった。 ○引き続き、幅広い作物に関する新規就農相談の実施や農地集積への積極的な支援を行うことで、新規就農者の確保を図る。</p> <p>○令和2年度は、令和元年度実績(598社)と比較して9社の増となった。 ○コロナ禍にあるが、引き続き消費喚起策をはじめとした各種施策や、低利の中小企業融資の運営や先端設備の導入促進等により、中小企業者の支援に取り組む。</p>				
移住・定住の促進				
○①まちへの誇りと愛着の醸成				
	(KPI)	H30	現在値	R6
1	「地域や子供会などの行事に参加している」と答えた児童生徒の割合【県調査】	73.9%	67.5%	79.0%
2	「自分の住んでいる地域が好き」と答えた児童生徒の割合【県調査】	86.3%	90.8%	89.0%
評価(KPIの達成度、今後の対策など)				
<p>○コロナ禍の状況の中で、多くの地域の行事や子供会活動が中止となったことで、地域と関わる機会が減少していると考えられる。しかし、県の平均値が45.8%であることから、本市においては、地域や子供会などの行事に積極的に参加している状況であると捉えることができる。 ○今後はコロナ禍による自主規制等の緩和により、地域の行事や活動が実施されることに伴い、積極的な参加を促し、地域と関わる機会の創出を行う。</p> <p>○前回調査時よりも数値は向上している。また、県の平均値が85.2%であることから、本市における児童生徒の地域へ愛着度は高い。各学校における地域を題材とした教育内容の創造及び実践を通して、児童生徒の地域への愛着を生み出していると考えられる。 ○引き続きコミュニティスクールを通して、地域とともにある学校づくりを推進し、地域の子供たちを地域で育てていく風土を醸成していきたい。</p>				
○②U・I・Jターンの促進				
	(KPI)	H30	現在値	R6
1	移住者数(施策に関連した者に限る)【累計】	12人(H30実績)	19人(R3累計)	50人(R2-R6累計)
評価(KPIの達成度、今後の対策など)				
<p>○令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、移住・定住セミナー、フェアはすべてオンラインでの実施となった。都市から地方への移住ニーズは高まっており、電話やメールでの相談件数は増加傾向にある。また、移住者数についても、前年度と比較して増加した。 ○引き続き広島県と連携し、移住・定住セミナー、フェアを実施するとともに、移住者の属性(家族構成、職業、性別、年代など)ごとの傾向など調査し、誰をターゲットにどのような情報を届けるのが効果的であるかを検討した上で、情報発信の強化を行う。</p>				
○③暮らしやすい環境の創出				
	(KPI)	H30	現在値	R6
1	都市機能誘導施設が充足している区域	4区域	2区域	4区域
2	路線バス全路線の平均乗車密度(高速バスを除く)	1.9人	1.4人	2.0人
3	空き家バンク成約件数【H20からの累計】	49件	97件	78件
4	地域防災リーダー登録者数【累計】	-	87人	75人
評価(KPIの達成度、今後の対策など)				
<p>○厳しい財政状況を踏まえた財政健全化計画に基づく取組において、出張所及び連絡所が廃止され、2区域に減少となった。 ○引き続き代替機能の確保や公共交通の利便性向上等の取組を進め、暮らしやすい環境の創出に取り組んでいく。</p> <p>○令和3年5月に同地区の交通モードの見直しにより竹原駅から芸芸津方面へのバス路線が休止となったものの、残りの6路線の平均乗車密度は、前年度と比較し同率となった。 ○令和3年5月から市内2地区で開始したデマンド型乗合タクシー実証運行に係る令和3年度の平均乗車密度 ●吉名地区[3.3人] ●仁賀地区[1.5人] ○引き続き利用者のニーズを踏まえた公共交通の再編に向けた取組を行う。</p> <p>○令和3年度の成約件数は16件、累計成約件数は97件となり、当初目標値を達成している。 ○引き続き、改修費助成や家財道具処分費補助の紹介や地元宅建事業者との連携を図り、成約件数を伸ばす取組を進める。</p> <p>○令和元より受付を開始し、市内にある75自治会のうち、43自治会に1人以上の防災リーダーが登録しており、すでに目標数値を達成している。 ○今後は女性の防災リーダーの増加と合わせ、各自治会に最低1人以上の防災リーダーの養成を目指し、市全体の地域防災力向上に努める。</p>				

個別事業シート

基本目標1

しごとをつくり安心して働けるようにする
竹原への新しいひとの流れをつくる

施策の方向性

仕事づくり ①魅力ある雇用の確保

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 サテライトオフィス等誘致促進事業	R3	市内産業の活性化及び雇用促進のため、近年業界成長の著しい情報サービス等の企業の誘致を促進する。	市ホームページ等で誘致促進にサテライトオフィス等誘致促進助成制度の紹介をしている。	【目標】 サテライトオフィスの誘致 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	呼び込む"ちから"づくりの推進	0				0	B	【担当課意見】 R3年度に首都圏から1件の誘致があった。 【今後の見通し】 引き続き県とも連携を図りながら情報発信を行い、市内へのオフィス誘致を促進に努める。
2 企業誘致事業	R3	雇用機会の確保と産業の活性化を図るため、県などの関係機関と連携して、竹原工業・流通団地など市内への製造業等の企業誘致活動を展開する。	市ホームページ等で企業誘致及び増設に係る奨励金を紹介した。	【目標】 企業誘致に伴う新規雇用者数 【目標数値】 30人(R2-R6累計)	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	142,500				142,500	B	【担当課意見】 R2年度にI区画が購入され、残りG区画のみとなっており(分譲率93.8%)。奨励金制度について市HPで紹介するなど企業誘致活動を展開しているが、100%には達していない。 【今後の見通し】 引き続き奨励金制度の広報に努め、企業誘致を促進し雇用の促進を図る。
3 ふるさと就職登録制度推進事業	R3	市内事業所の人材確保を図るため、市内への就職希望者の情報を登録し、登録情報を市内事業所に提供する。	HPや広報誌等で、本制度を周知するとともに、市内の県立高等学校に出向き登録者を募った。登録者情報をHPに掲載するとともに、就職ガイダンス参加事業所に制度を紹介した。R年度ふるさと就職登録希望者数は110人と目標を達成していない。	【目標】 ふるさと就職登録希望者数 【目標数値】 R6-150人	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	0				0	B	【担当課意見】 R3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため就職ガイダンスが開催できず、就職ガイダンスでの登録者を募ることができなかったものの、なかったものの、市内高島学校に生徒のふるさと就職登録へ協力していただいたことで、登録者は増加した。 【今後の見通し】 今後はSNS等の活用を強化し、登録者を募るとともに、登録者に就職ガイダンス案内を送付し、市内事業所への就職に繋がるよう取り組む。
4 就職ガイダンス開催事業	R3	市内事業所の人材確保を図るため、新卒を含むすべての就職希望者を対象に、就職ガイダンスを開催する。	R4年2月に開催を予定していた令和3年度の就職ガイダンスは、新型コロナウイルス感染症感染拡大状況を鑑み、中止とした。	【目標】 就職ガイダンス参加者のうち市内企業への就職者数 【目標数値】 R6-20人	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	95,192				95,192	C	【担当課意見】 R3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため就職ガイダンスが開催できず目標達成値を下回った。 【今後の見通し】 今後は状況に応じてオンライン開催も検討する。また、SNS等の活用を強化し、ふるさと就職登録者を募るとともに、登録者に就職ガイダンス案内を送付し、市内事業所への就職に繋がるよう取り組む。

個別事業シート

基本目標1 しごとをつくり安心して働けるようにする
竹原への新しいひとの流れを作る

施策の方向性 仕事づくり ②創業の促進

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 サテライトオフィス等誘致促進事業【再掲】	R3	市内産業の活性化及び雇用促進のため、近年業界成長の著しい情報サービス業等の企業の誘致を促進する。	市ホームページ等で誘致促進にサテライトオフィス等誘致促進助成制度の紹介をしている。	【目標】 サテライトオフィスの誘致 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	呼び込む"ちから"づくりの推進	0				0	B	【担当課意見】 県と連携を図りながら情報発信を行う中で、R3年度は首都圏から1件の誘致を行うことができた。 【今後の見通し】 引き続き県とも連携を図りながら情報発信を行い、市内へのオフィス誘致の促進に努める。
2 空き店舗等改修補助事業	R3	空き店舗の増加による商店街の空洞化や衰退を打開するとともに、移住希望者の受入環境としても寄与し、地域の賑わいを創出するため、空き店舗等を活用する創業者等に対して店舗改修に係る経費の一部を助成する。	HPや広報誌等で募集を行ったが、コロナ禍も影響し、申請件数は0件であった。R2年度から、対象業種に、情報サービス業、インターネット附属サービス業、コールセンター業等を追加、対象物件に、忠海エリアの空き家を追加するなど、対象の拡充を図った。	【目標】 空き店舗等を活用した創業数 【目標数値】 年3件	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	呼び込む"ちから"づくりの推進	2,000,000				2,000,000	B	【担当課意見】 R3年度は、申請件数は3件であり、目標に達していたが、最終的には2件の交付決定であった。 【今後の見通し】 空き店舗等の改修に係る相談はあるため、引き続き、創業を支援し、地域の賑わい創出に取り組む。また、広く活用される助成金とするため、同一事業者への助成金の交付については一定の制限を設ける。

個別事業シート

基本目標1 しごとをつくり安心して働けるようにする
竹原への新しいひとの流れを作る

施策の方向性 仕事づくり ③地域産業の振興

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 地域おこし協力隊事業	R3	都市部からの地域おこし協力隊2名を募集し、少子高齢化の進行が顕著で一次産業者の割合が高い振興山村(田万里・仁賀)等の活性化、竹原市郷土産業振興館を中心とした、地域資源の活用やブランド化の推進を図る。	R2年7月から協力隊員1名、R3年10月から1名を委嘱し、地域活性化の活動を実施した。	【目標】 振興山村の活性化及び地域資源の活用、ブランド化の推進 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	6,921,041			6,921,041	0	B	【担当課意見】 R2年7月から協力隊員1名、R3年10月から1名を委嘱し、地域活性化の活動を実施している。 【今後の見通し】 隊員の任期が最長3年となっていることから、継続的かつ効果的な取組が実施できるよう支援していく。
2 農業振興地域整備計画更新事業	R2~R4	農業振興地域の整備に関する法律により農業振興地域整備計画の抜本的な計画改正を5年を目途に実施することとされているが、平成18年から改正しておらず、現状の「守るべき農用地」を適切に反映する必要があることから更新を行う。	農業振興地域整備計画に関する基礎調査として、農用地等の面積、土地利用、農業就業人口の規模、人口規模、農業生産その他農林水産省令で定める事項に関する現況及び将来の見通しについての調査を行った。	【目標】 農業振興地域整備計画の更新 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	1,600,000				1,600,000	A	【担当課意見】 R3年度は、農業振興地域整備計画(案)を作成した。 【今後の見通し】 R4年度は県と協議を行い、農業振興地域整備計画を策定する。
3 中小企業融資制度補助事業	R3	市内中小企業者の資金繰りを支援するため、市内金融機関に融資資金を預託し、低利な融資制度を運営する。	市内金融機関に融資資金を預託し、低利な融資制度を運営するとともに、信用保証料の低減を図った。	【目標】 市内中小企業者の資金繰りの支援 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	180,000,000				180,000,000	B	【担当課意見】 R2年度で国のコロナ融資が終了したため、R3年度は、市の中小企業融資の申込が増えた。 【今後の見通し】 今後も、制度内容を適宜見直ししながら、中小企業者の資金繰りを支援していく。
4 郷土産業振興館運営事業	R3	農村漁村の所得向上や雇用創出を図るため、価値の高まる可能性のある一次産品を中心に加工して商品化する拠点施設の運営を行い、本市の農林水産物の高付加価値化や一年を通して安定供給できる仕組みを構築する。	・前年度、設置した設備を活用して、小魚等を活用した節を商品化に取り組んだ。 ・ふるさと納税の寄附者に対し、魚を使った加工品で返礼を行い、豊かな水産資源を本市の魅力の一つとしてPRした。 ・SNS(InstagramとFacebook)のアカウントを作成し、事業内容や本市漁業の現状について発信を行った。	【目標】 新規雇用者の増加、魅力ある商品の開発、販路拡大 【目標数値】 売上:43,650千円 新規雇用者:6人 ご当地料理もしくは加工品:9品	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	17,736,244			8,262,063	9,474,181	B	【担当課意見】 目標に対しての実績が売上8,262千円、新規雇用者6人、加工品14品、コロナ禍の影響もあり、売上は予算額大きく下回ったが、新規雇用者と加工品は順調に推移していると考えられる。 【今後の見通し】 売り上げ目標の達成に向け、ECを中心とした販路の拡大やSNS等による広報・発信、加工品の開発に取り組む。
5 鳥獣被害対策事業	R3	農林水産業への鳥獣による被害を防止することを目的とし、侵入防止策の整備や加害鳥獣の捕獲、捕獲の担い手の育成等の取組を一体的に推進する。	鳥獣の侵入防止柵設置補助や箱わなの貸出し、狩猟免許取得費用の助成、担い手の圃場への大規模侵入防止柵の設置を行った。 令和3年度のイノシシによる被害額は299万円で達成、シカによる被害額は106万円未達成だった。	【目標】 鳥獣による被害額の減少 【目標数値】 イノシシ 335万円 シカ 53万円	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	10,903,216		3,539,208		7,364,008	B	【担当課意見】 侵入防止柵と捕獲の一体的な活動により、イノシシにおける被害金額はR3末現在でR6目標値以下となったが、シカによる水稲、野菜への被害が減少していない。 【今後の見通し】 引き続き、侵入防止柵と捕獲の一体的な活動を推進し、シカにおける被害金額の目標値の達成を目指す。
6 水産業振興事業	R3	メバルやオニオコゼ、マダイなどの種苗放流や簡易的な漁場の整備等を行うことにより、竹原市の水産資源の維持増大させるとともに、漁業者の所得を向上させる。	メバルやオニオコゼ、マダイの種苗放流やたこぼし型産卵礁・小型魚礁の設置並びにその効果検証を行った。	【目標】 水産資源の高付加価値化及び竹原市水産業発展の推進 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	4,019,399		50,000		3,969,399	B	【担当課意見】 種苗放流については、漁業者から放流効果があると聞いている。小型魚礁については、潜水調査により、魚類の住処として一定の効果を実証できたが、芸南漁協組合の漁獲高は減少傾向にあり、今後の課題として捉えている。 【今後の見通し】 引き続き、種苗放流と漁場整備の一体的な取組を行い、水産資源の維持増大、高付加価値化を推進する。

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)	
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財			
7 6次産業化地産地消推進事業	R3	市内の農林水産物の生産・商品開発・販売力(広報)の向上による農林水産業を核とした地域の活性化(6次産業化)及び地産地消の推進を目的とした活動をする団体への補助を行う。	竹原市6次産業化地産地消推進協議会の実施する食の研修事業及び食の体験・交流事業への補助を行った。令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響のため、例年、協議会が実施していたフードフェスティバルへの出店ができず、夢プラザへの出品も縮小した。	【目標】 竹原の食資源を生かし、農林水産物の生産から加工、販売までを行う6次産業化事業並びに地産地消の推進による農山漁村の活性化及び所得向上 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	0					0	B	【担当課意見】 R3年度はコロナウイルス感染症対策の観点から、ほとんど事業を行うことができなかった。 【今後の見通し】 今後の状況を鑑み、実施される事業への補助を行い、6次産業化を推進する。
8 漁港施設長寿命化対策事業	R3~R5	市が管理する漁港施設、海岸保全施設の適正な維持保全及び運営を行うとともに、施設更新のコスト平準化、縮減を図るため、特に劣化程度の著しい施設の長寿命化に取り組む。	竹原漁港施設の改修に伴う設計業務を実施。	【目標】 漁業振興のための、漁港施設の適正な維持管理。 【目標数値】 なし	建設課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	14,026,100	7,013,050				7,013,050	B	【担当課意見】 平成30年7月豪雨に係る災害復旧を優先するため、事業開始を3年遅らせた。 【今後の見通し】 令和5年度までに、吉名地区4浮桟橋の改修、及び長浜地区の護岸改修の完了を目指す。
9 森林経営管理事業	R3	国により制度創設された森林環境譲与税を活用して、適正な森林管理に向けた森林整備、木材利用、人材育成、普及啓発等を行う。	森林所有者へ今後とも自ら経営管理を継続するか意向調査を実施。(仁賀町内の11筆11haを対象)	【目標】 森林整備の進展や生産された木材の利活用、市民の森林・林業への理解の醸成、山村振興を目指す。 【目標数値】 なし	建設課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	—	5,523,363			106,810		5,416,553	B	【担当課意見】 国土調査実施済みの区域から優先的に森林の現況調査を行った上、意向調査対象箇所を選定した。 【今後の見通し】 森林の集積を図り、効率的かつ効果的な森林整備の実施を目指す。

個別事業シート

基本目標1 しごとをつくり安心して働けるようになる
竹原への新しいひとの流れを作る

施策の方向性 移住・定住の促進 ①まちへの誇りと愛着の醸成

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 シティプロモーション事業	R3	市民のまちへの誇りと愛着を高めるとともに、市内外の人々から「選ばれるまち」となり、本市に「訪れたい」「関わりたい」「住みたい」人を増やすため、各種シティプロモーション事業を実施する。	「たけはらファンクラブ」の創設・運営、広島ドラゴンフライズとの連携、わがまち魅力発信隊による本市のPR実施を実施した。	【目的】 市民のまちへの誇りと愛着を高めるとともに、市内外の人々から「選ばれるまち」となり、本市に「訪れたい」「関わりたい」「住みたい」人を増やす。 【目標数値】 たけはらファンクラブ加入者数 R4.3(現在値)=990、R6=200 転出超過数 H30=320人、R6=144人	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	呼び込む"ちから"づくりの推進	1,078,925			1,078,625	300	A	【担当課意見】 たけはらファンクラブについて、SNSで地域の魅力やイベント情報など竹原市にまつわる様々な情報を発信を行った。会員と地域住民との交流会については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 【今後の見通し】 「たけはらファンクラブ」については、会員と地域住民との交流会など本市との関係性が深まる取組を進めていく。また、広島ドラゴンフライズとの連携事業やわがまち魅力発信隊による本市のPR事業に関しては引き続き継続して行う。
2 コミュニティ・スクール導入事業	H31~R3	市内の小、中、義務教育学校において、地域とともにある学校づくりを推進するため、令和3年度、全ての学校へ学校運営協議会を設置し、「コミュニティ・スクール」をスタートさせる。	市内全校におけるコミュニティ・スクールの推進に向け、学校運営協議会を設置し、67名の学校運営協議会委員を委嘱した。学校運営協議会委員や教職員、保護者を対象とした、市主催研修等を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったが、市教育委員会の担当者が各校の学校運営協議会へ参加し助言等をした。管理職研修会等で指導講話を行った。	【目標】 令和3年度、全ての竹原市立学校に学校運営協議会を設置する。 【目標数値】 なし	総務学事課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	育てる"ちから"づくりの推進	259,800				259,800	A	【担当課意見】 令和3年度は、コロナ禍で学校運営協議会の開催や研修等の実施に制限はあったものの、各学校において工夫しながら、学校運営協議会としての動きを進めることができた。 【今後の見通し】 令和4年度は、引き続き、各学校運営協議会へ市教育委員会担当者が出席し、コミュニティ・スクールの円滑な推進に向けた支援を行っていくとともに、研修会等の実施を計画、実施する。
3 たけはら未来ミーティング	R3	第6次総合計画基本構想及び行財政経営強化方針を踏まえ、市民の声を今後のまちづくりに活かすことにより、市民の市政への参画を促進し、協働のまちづくりの更なる成熟化を図るため、地域課題の解決や竹原の魅力づくりなどのテーマを設定し、そのテーマに応じて関係する市民と市長が、本市の未来創造に繋がる自由闊達な意見交換を行う。	竹原市まちなか賑わい創業支援事業助成金を活用した創業者や本市内の企業へ就職した若者を対象として、竹原市が持続可能な魅力あるまちになるために必要なことなどについて市長と意見交換をした。	【目標】 移住・定住者をターゲットにした意見交換の場の設定や未開催の地区でのミライミーティングを通じて、地域課題の解決や竹原のさらなる魅力向上を目指す。 【目標数値】 なし	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	0				0	D	【担当課意見】 令和3年度はコロナ禍でも感染拡大に気を付けながら対象者をより限定的にして意見交換を行うことで、現状の課題認識を図ることができた。 【今後の見通し】 令和4年度もコロナ禍に配慮しながら、移住・定住者や子育て世帯にターゲットを絞った市民とのミライミーティングを計画し、新たな地域課題やニーズを把握する。
4 たけはらファンクラブ運営事業	R3	本市に愛着を持ち、継続的に多様な形で関わる「関係人口」の創出・拡大を図るため、竹原市を好きで応援してくれる人達で組織する「たけはらファンクラブ」を創設し、ファンクラブでの関わりを通して、まちの賑わい創出やまちづくりの新たな担い手として期待できる人材を確保する。	会員に向けて、SNSで地域の魅力やイベント情報など竹原市にまつわる様々な情報を発信を行った。会員と地域住民との交流会については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。	【目標】 まちの賑わい創出やまちづくりの新たな担い手として期待できる人材を確保する。 【目標数値】 たけはらファンクラブ加入者数 R4.3(現在値)=990、R6=200	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	54,045			53,745	300	A	【担当課意見】 令和3年度は、SNSで地域の魅力やイベント情報など竹原市にまつわる様々な情報を発信を行った。会員と地域住民との交流会については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 【今後の見通し】 令和4年度は、会員と地域住民との交流会など本市との関係性が深まる取組を進めていく。

個別事業シート

基本目標1 しごとをつくり安心して働けるようにする
竹原への新しいひとの流れを作る

施策の方向性 移住・定住の促進 ②U・I・Jターンの促進

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 サテライトオフィス等誘致促進事業【再掲】	R3	市内産業の活性化及び雇用促進のため、近年業界成長の著しい情報サービス業等の企業の誘致を促進する。	市ホームページ等で誘致促進にサテライトオフィス等誘致促進助成制度の紹介をしている。	【目標】 サテライトオフィスの誘致 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	呼び込む"ちから"づくりの推進	0				0	B	【担当課意見】 県と連携を図りながら情報発信を行う中で、R3年度は首都圏から1件の誘致を行うことができた。 【今後の見通し】 引き続き県とも連携を図りながら情報発信を行い、市内へのオフィス誘致を促進に努める。
2 空き店舗等改修補助事業	R3	空き店舗の増加による商店街の空洞化や衰退を打開するとともに、移住希望者の受入環境としても寄与し、地域の賑わいを創出するため、空き店舗等を活用する創業者等に対して店舗改修に係る経費の一部を助成する。	HPや広報誌等で募集を行ったが、コロナ禍も影響し、申請件数は0件であった。R2年度から、対象業種に、情報サービス業、インターネット付随サービス業、コールセンター業等を追加、対象物件に、忠海エリアの空き家を追加するなど、対象の拡充を図った。	【目標】 空き店舗等を活用した創業数 【目標数値】 年3件	産業振興課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活と優しさがあふれるまち 目標像4 様々な仕事に挑戦できる元気な産業が育ち、活気に満ちている	呼び込む"ちから"づくりの推進	2,000,000				2,000,000	B	【担当課意見】 R3年度は、申請件数は3件であり、目標に達していたが、最終的には2件の交付決定であった。 【今後の見通し】 空き店舗等の改修に係る相談はあるため、引き続き、創業を支援し、地域の賑わい創出に取り組む。また、広く活用される助成金とするため、同一事業者への助成金の交付については一定の制限を設ける。
3 子育て世帯向け地域優良賃貸住宅管理事業	R3	良好な居住環境を備えた子育て世帯向けの賃貸住宅をH28年度から20年間借り上げるとともに、家賃助成制度を設けることにより、将来を担う子育て世帯の移住・定住を促進する。	家賃助成 入居募集(広報、HP、不動産情報サイト) 入居戸数(年度末) R元年度 25戸 R2年度 27戸 R3年度 24戸	【目標】 全室入居 【目標数値】 全27戸	都市整備課	将来像4 瀬戸内の恵まれた風土と市民の絆のもと、誰もが安全・安心で快適に生活できるまち 目標像6 生活の基盤が整備され、快適に暮らしている	—	24,242,653	3,597,000		13,897,248	6,748,405	A	【担当課意見】 事業開始からR3年度末までの市外からの入居は23戸 事業開始からR3年度末までに23戸が退去し、うち8戸が市内に一戸建てを購入 R3年度の月平均入居戸数は26.17戸 【今後の見通し】 R3年度の募集に伴う問い合わせは13件転勤等による退去はどうしても出てくるが、満室に向け取り組む。
4 交流促進事業	R3	移住・定住人口の拡大を図るため、移住先として選ばれるために有効な取組を実施する。	地域づくりを実践されている方をゲストに招いたオンライン移住・定住セミナーを実施した。 広島県と連携し、移住・定住フェア・セミナーをオンラインで実施した。	【目標】 移住・定住人口の増加による、地域振興を図る。 【目標数値】 移住者数(施策に関連したものに限り) R3年度(現在値)=8人 R2~R6=50人(累計)	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	464,240			44,000	20,240	B	【担当課意見】 関係・移住定住人口創出・拡充イベントについては、地域づくりを実践されている方をゲストに招いたオンラインセミナーを実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、移住・定住セミナーについては、オンラインでの実施となった。 【今後の見通し】 令和4年度は、関係・移住定住人口創出・拡充イベントの現地ツアー実施、移住支援金を交付などにより、関係人口の及び移住・定住人口の増加による、地域振興を図る。
5 関係人口及び移住・定住人口創出事業	R3	移住に関心がある方や竹原市と関わりを持つ方と、先輩移住者や地域住民とのつながりをつくるため、関係人口及び移住定住人口創出・拡大のイベントを実施する。	地域づくりを実践されている方をゲストに招いたオンライン移住・定住セミナーを実施した。 新型コロナウイルス感染症の影響により、現地ツアーについては、中止となった。	【目標】 関係人口及び移住・定住人口の増加による、地域振興を図る。 【目標数値】 移住者数(施策に関連したものに限り) R3年度(現在値)=8人 R2~R6=50人(累計)	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	444,000			444,000	0	B	【担当課意見】 令和3年度は、地域づくりを実践されている方をゲストに招いたオンラインセミナーを実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、現地ツアーは中止となった。 【今後の見通し】 令和4年度は、セミナーの実施と併せて、地域を知り・体験していただく現地ツアーを実施する。

個別事業シート

基本目標1 しごとをつくり安心して働けるようにする
竹原への新しいひとの流れを作る

施策の方向性 移住・定住の促進 ③暮らしやすい環境の創出

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)	
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財			
1 駅前賑わい空間再生事業	R3	竹原駅前の低未利用地の活用を図り、エリア全体で市民や来訪者にとって居心地が良く、歩きたくなる空間を創出するための取組を実施する。 ・駅前地域の活性化のためのビジョンづくり ・クラウドファンディングを活用した空き店舗等低未利用地の活用推進 ・空き地等を活用したイベント等への支援 ・駅前駐輪場の移転 など	令和2年度に策定した竹原駅前エリアウォークアップビジョンに基づき、駅前エリアで居心地の良い滞留空間創出のための社会実験に官民連携で取り組み、地域住民・沿道商店等のまちづくり活動に対する意識醸成を図った。	【目的】 エリア全体で市民や来訪者にとって居心地が良く、歩きたくなる空間を創出し、車中心から人中心のまちづくりを進める。 【目標数値】 なし	都市整備課 企画政策課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	呼び込む"ちから"づくりの推進	977,810					977,810	B	【担当課意見】 令和2年度に策定したウォークアップビジョンや社会実験などによる成果を踏まえ、地域住民・沿道商店、民間事業者などが、ウォークアップなまちづくりへの理解を深め、主体的な活動につながっている。 【今後の見通し】 R4年度は、日常的な居心地の良い滞留空間創出に向けた官民連携の取組や空き店舗活用に向けた必要な機能・デザインなどを検討し、オーナーに提案していく予定としている。
2 地域公共交通推進事業	R3	地域公共交通網の再編を行い、地域公共交通の利用環境の向上を図るため、新たな交通モードの環境整備を行う。	R4年度から本格運行へ移行するため、自治会や民生委員協議会の会議へ出向いて利用方法の説明をするとともにタレントや新聞を通じて事業PRを行い利用促進を図った。	【目的】 令和4年度のデマンド型乗合タクシー本格運行の開始 【目標数値】 なし	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	呼び込む"ちから"づくりの推進	2,450,400					2,450,400	A	【担当課意見】 R4年度の本格運行に向け各種取組を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により地域住民が外出を控える傾向にあったため実証運行による正確な利用データが把握できなかった。 【今後の見通し】 R4年度も実証運行を継続し、利用実績や地域住民の意見等を踏まえ、R5年度からの本格運行に向けた実施内容を精査したうえで各種手続きを進める。
3 空き家対策総合支援事業	R2~R4	活用可能な空き家は市場への流通を促し、空き家の有効活用により移住・定住を促進することで、空き家の発生を予防する。また、管理不全な空き家に対しては、法的措置等の実施に向けた体制強化を行うとともに、除却を進める。	(改修費支援) 移住者が空き家を取得し、居住のために必要な空き家の改修費に対して支援(除却費支援) 周辺へ危険を及ぼしている空き家の除却費に対して支援 (家財道具処分費支援) 空き家の流通を促進するため、家財道具処分費に対して支援 (所有者調査業務) 周辺へ危険を及ぼしている空き家で所有者が死亡し、相続人が複数いる場合、司法書士会に調査を依頼し、相続人を特定する。	【目標】 市内にある空き家の解消 【目標数値】 支援制度の利用 18件/年	都市整備課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	呼び込む"ちから"づくりの推進	6,782,796	3,390,000				3,392,796	A	【担当課意見】 R3年度は目標数値を達成した。空き家支援制度により、空き家の利活用が促進されるとともに、危険な空き家の除却が進んだ。 【今後の見通し】 ニーズや課題に応じた空き家支援制度を継続して行う。
4 災害時(自治会充)一斉電話発信事業	R3	災害時等において各自治会に一斉電話を発信し、避難指示等の避難情報など伝達すべき情報を音声で伝達するシステムを活用する。	75自治会すべての代表者の電話番号を登録し、一斉電話の訓練を実施	【目標】 75自治会すべてにおいて、毎年最新の情報に更新していく。 【目標数値】 75自治会(各3名)	危機管理課	将来像4 瀬戸内の恵まれた風土と市民の絆のもと、誰もが安全・安心で快適に生活できるまち 目標像7 市民が支え合う絆を大切に、安全・安心な生活環境が確保されている	—	481,947					481,947	A	【担当課意見】 災害時等に一斉に情報発信できるツールの一つとして、有効であると考えている。 【今後の見通し】 災害時等の迅速な情報伝達として活用していく。
5 新開土地区画整理事業	R3	有効な土地利用とともに、良好な居住環境の整備を図るため、新開地区において土地区画整理事業を引き続き実施する。	関係権利者との合意形成を図りながら、補償・道路整備・土地造成等各種事業に取り組んだ。	【目標】 道路・水路・公園等の都市基盤整備により、良好な居住環境を創出し、都市機能の誘導・移住定住の促進を図る。 【目標数値】 令和3年度末事業進捗率 87%	都市整備課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	—	75,773,171	19,405,000	25,800,000		30,568,171	A	【担当課意見】 R3年度は関係権利者との合意形成をはかり、工作物移転・区画道路工事に着手した。 【今後の見通し】 R4年度も引き続き、関係権利者との合意形成を図りながら、補償・道路・土地造成等の事業を進める。	
6 地域防災リーダー養成事業	R3	地震や風水害等をはじめとする災害の発生に備え、防災・減災に関する専門的な知識と技能を有する「防災リーダー」を養成する「竹原市地域防災リーダー研修会」を開催	竹原市地域防災リーダー養成並びにフォローアップ研修会の開催 防災リーダーが参画し避難の呼びかけ体制づくり構築に向けた取組の実施	【目標】 75自治会のうち、43自治会に防災リーダーが在籍しているが、各自治会に最低1名を登録するよう防災リーダーを養成していく。また、女性の防災リーダーを増やし、持続可能な防災・減災を目指す。 【目標数値】 75自治会(各1名以上)	危機管理課	将来像4 瀬戸内の恵まれた風土と市民の絆のもと、誰もが安全・安心で快適に生活できるまち 目標像7 市民が支え合う絆を大切に、安全・安心な生活環境が確保されている	—	130,300		65,000		65,300	A	【担当課意見】 自発的に防災リーダーとして登録者も年々増えており、個々の防災に対する意識も高くなってきている。 【今後の見通し】 主体的に各防災リーダーが地域や学校等と連携して、市民に防災意識の普及啓発に努めている。引き続き地域防災リーダーの育成及び知識向上に努める。	

基本目標別達成状況総括表

基本目標2	
<p>数値目標</p> <p>○人口千人あたりの出生率 4.04(H30)→ 4.18(R3) →5.04(R6)</p>	
<p>数値目標に対する総合評価</p> <p>○前年度(4.17)と比較し微増となった。 ○本市の人口千人あたりの出生率は微増となったものの、出生者は前年度(102人)から減少している。この減少した主な要因として婚姻率の低さが考えられるため、出会いの場を作るための婚活支援事業や婚姻に伴う経済的負担を軽減する結婚新生活支援事業を行うなど出生率の向上につなげる取組を実施した。 ○今後目標数値を達成するためにも、引き続き出会い・結婚のサポート、妊娠・出産期への切れ目のない支援及び継続的な子育て支援が必要である。</p>	

少子化対策				
○①出会い・結婚のサポート				
	(KPI)	H30	現在値	R6
1	婚姻率(人口千対)	3.2 (H29実績)	2.7 (R3速報値)	4.3
<p>評価(KPIの達成度、今後の対策など)</p> <p>○結婚への価値観や様々な考え方等により、婚姻率は減少傾向である。 ○出会い・結婚・妊娠・出産・育児の「切れ目のない支援」として行う取組のうち、令和3年度は、「出会い」として、呉市を中心とした連携中枢都市圏事業として婚活イベントへの補助事業を行い、「結婚」の支援として、結婚新生活支援事業(新婚世帯への経済的負担の軽減)を実施した。令和4年度においては、結婚新生活支援事業(新婚世帯への経済的負担の軽減)を拡充して実施し、引き続き結婚しやすい環境づくりを推進する。 ※参考指標:竹原市への婚姻届提出数(速報値) 64件(R2年) → 66件(R3年)</p>				
○②妊娠・出産期への切れ目のない支援				
	(KPI)	H30	現在値	R6
1	不妊治療費助成申請件数【一般+特定】	15件	37件	16件
2	たけはらっこネウボラの利用者数【年間累計】	501人	408人	550人
<p>評価(KPIの達成度、今後の対策など)</p> <p>○不妊治療の対象要件として令和3年度から対象者の収入要件が緩和されたため申請者が増加した。 ○新たな助成制度を、こそだてはなぶつや母子手帳に表記することやネウボラを利用する人に説明するなど、制度と相談機関の周知を図る。</p> <p>○リーフレットは、母子健康手帳交付時、市内の保育所等に通所する子どもをもつ保護者向け、及び成人式で配布し、更なる周知を図った。 ○令和3年度に実施したアンケートでは、前年度と比較して認知度及び利用意向が向上し、本事業が育児不安の解消や孤立感の軽減につながっていることが分かった。 ○子どもと遊びに来た際に、併せて子育ての相談をしたいという保護者のニーズに基づいて、母子保健コーディネーター(助産師)及び子育て支援コーディネーター(保育士)が従事する遊びの教室を開始し、相談しやすい環境を整えた。 ○引き続き認知度を高め、妊娠期から子育て期を見据えた支援を継続し、相談者の増加を図る。</p>				
○③子育て支援				
	(KPI)	H30	現在値	R6
1	こども園待機児童数	0人	0人	0人
2	放課後児童クラブ待機児童数	0人	1人	0人
3	地域子育て支援センターの子供一人あたり利用回数	26.7回/人	9.8回/人	27.5回/人
4	ファミリーサポートセンター登録会員数	381人	408人	413人
<p>評価(KPIの達成度、今後の対策など)</p> <p>○教育・保育事業の見込み量から必要な量を確保しており、年間を通じてこども園・保育所の待機児童数は0人である。 ○引き続き保育ニーズを考慮した施設定員を設定し、保育士の人材確保や施設の適正配置を図る。</p> <p>○令和3年度の児童クラブ全体の定員に対する登録者数は約8割であるが、年度途中の利用希望者があり、定員を超え受け入れられない状況(待機児童)が発生したが、令和4年2月には待機児童は無しとなった。 ○引き続き低学年など保育の必要な児童を優先して利用決定できるよう、募集要項案内について、市ホームページ掲載、広報たけはら掲載、各児童クラブより発信などを行う。</p> <p>○令和2年度に引き続き令和3年度においても、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により支援センターの休止や人数制限を行ったことから利用回数は減少した。 ○地域子育て支援センター「ゆりかご」が令和2年3月末で閉所したことから、数値目標を達成することは難しい状況にある。 ○引き続き市ホームページ掲載、広報たけはら掲載、メールマガジンでの情報発信、来庁者へ紹介を行う。</p> <p>○各こども園・小学校等への周知チラシの配布や放課後児童クラブの保護者説明会で事業説明するなど周知をすることで、登録会員数は目標値に近づいている。 ○引き続き、ファミリーサポート事業の周知を図り、更なる会員数の増加を図る。</p>				

個別事業シート

基本目標2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

施策の方向性 少子化対策 ①出会い・結婚のサポート

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 婚活イベント支援事業	H30～R4 (連携中核都市圏の実施期間)	少子化の要因の一つである未婚化及び晩婚化に対する取り組みとして、結婚を希望する独身の男女のために、結婚の推進を目的とした出会いの機会を積極的に提供する事業を支援する。	結婚を希望する20歳以上の独身の男女に対して健全な出会いの機会と交流の場を提供するもの等で、構成市内の会場で開催される事業、又は構成市町を発着するツアーイベント等に対して助成した。	【目標】 出会いのきっかけにつながる活動の促進や近隣市町との連携による出会いの場を創出する。 【目標数値】 なし	社会福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	育てる"ちから"づくりの推進	213,000				213,000	—	【担当課意見】 R3年度に竹原市で実施したイベントでは、男性22名、女性22名の参加があり、4組カップル成立した。 【今後の見通し】 R4年度は、江田島市・海田町で実施予定である。
2 結婚新生活支援事業	R3	結婚・妊娠・出産・育児の「切れ目のない支援」として行う取組のうち、結婚に対する取組について、結婚に伴う経済的負担を軽減するため、新規に結婚した世帯を対象に新生活を経済的に支援する。	夫婦共に婚姻日における年齢が39歳以下かつ世帯所得400万円未満の新規に婚姻した世帯に対し、婚姻に伴う住宅取得費用又は住宅賃借費用、引越費用を対象とした補助(上限額30万円)を行った。	【目標】 結婚に伴う新生活を開始する際の経済的な負担を軽減することにより、結婚しやすい環境づくりを推進する。 【目標数値】 なし	社会福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	育てる"ちから"づくりの推進	1,736,000		868,000		868,000	—	【担当課意見】 令和3年度から新規事業として実施し、9新婚世帯に対し経済的負担を軽減することができた。 【今後の見通し】 令和4年度も引き続き実施し、結婚しやすい環境づくりを推進する。

個別事業シート

基本目標2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

施策の方向性 少子化対策 ②妊娠・出産期への切れ目のない支

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 妊婦・乳幼児健康診査支援事業	R3	妊娠中に必要な健診費用の補助及び乳児期の健康診査費用の補助を行うことで、必要な時期の健診受診を促し妊婦の健康及び乳児の健康の保持増進を促進する。	母子手帳交付時に妊娠中に必要な健診の受診券及び乳児期の受診券を交付し、妊婦健診受診の促進及び乳児の健康の保持増進に取り組んだ。 【実績 R2/R3】 ○妊婦健診 ・妊婦一般健康診査補助券 1,205件 /1,190件 ・妊婦一般健康診査検査券 96件/96件 ・子宮頸がん検診受診券 96件/93件 ・クラミジア健診受診券 95件/90件 ○乳児一般健診 146件/131件 ○新生児聴覚検査 100件/95件	【目的】 妊婦健診の受診促進及び乳児期における健康の保持増進 【目標数値】 ○妊婦健診 ・妊婦一般健康診査補助券 1,408件 ・妊婦一般健康診査検査券 116件 ・子宮頸がん検診受診券 113件 ・クラミジア健診受診券 115件 ○乳児一般健診 158件 ○新生児聴覚検査 116件	健康福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	—	10,210,256				10,210,256	B	【担当課意見】 少子化の影響で実績は減少したが、妊婦の健康管理と乳幼児の健やかな発育支援につながった。 【今後の見通し】 妊婦の健康及び乳児の健康の保持増進に寄与するため、引き続き本事業を実施する。
2 妊婦健康診査支援事業	R3	妊娠中からの妊婦の健康管理とあかちゃんの健やかな発育を支援するため妊婦に対する健康診査等の事業を実施することにより、子育て支援対策の充実を図る。 【主な事業】 妊婦健康診査1回受診につき2,000円(上限28,000円)の奨励金を交付する。	母子手帳交付時に事業内容について説明し、産後赤ちゃん訪問や予防接種券交付時に申請を促し、妊婦やあかちゃんの健康の保持増進に取り組んだ。 【妊婦支援費支給件数】 R1 113件 R2 93件 R3 92件	【目標】 妊婦の健康管理とあかちゃんの健やかな発育を促進する。 【目標数値】 121件	健康福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	—	2,234,000				2,234,000	A	【担当課意見】 目標数値は下回ったが、事業説明を行い、産後に申請を促せたことで妊婦の健康管理とあかちゃんの健やかな発育の支援につながった。 【今後の見通し】 妊婦と胎児の健康の保持増進及び妊婦健康診査の受診を促進するため継続して実施する。
3 不妊治療費補助事業	R3	不妊検査・一般不妊治療費及び特定不妊治療(体外受精及び顕微授精)に併せて行われる先進医療又は審議中の技術において、費用の一部を助成することにより、不妊治療を希望するカップルの経済的負担の軽減と、子どもを産みやすい環境を確保し、子育て支援対策の充実を図る。	ホームページの掲載、チラシを保健センター・庁内等に配架 するとともに西部東保健所などの関係機関と連携し、該当者及び申請を検討している市民に対して継続的に周知し、経済的負担を軽減し、子どもを産み育てやすい環境づくりに取り組んだ。 ●特定不妊治療 【R2実績/R3実績(R2実績との差)】 助成件数 実 6人/13人(+7人) 延 11件/19件(+8人) ●不妊検査費等 【R3実績】 助成件数 実5人 延5人	【目標】 不妊治療を行うことで、子どもを望む家庭に子どもが持てる機会を周知する。 【目標数値】 不妊治療支援費補助金 9件 一般不妊治療助成 2件	健康福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	—	2,564,675				2,564,675	A	【担当課意見】 R4年度より特定不妊治療が保険適用になることに伴い、R3年度までの助成制度は終了し、新たに先進医療部分の助成が開始。マスコミなどでも取り上げられ市民の関心が高まったこともあり申請者が増えた。 【今後の見通し】 経過措置として年度前半は申請者が多い見込み。新たな制度への周知が必要。
4 産婦人科健診施設支援事業	R3	妊婦に対し妊婦健康診査事業の継続受診及び妊娠期の母性支援の充実を図るため、運営費補助を行う。 (H28年度から開始)	医療機関:医療法人社団仁慈会安田病院 診察日:月2回→月6回(R3年度より開始) 医療機関への支援内容:医療に必要な運営補助 R3年度より産後健診についても実施 ・妊婦健康診査受診者実績 R2 4人(延べ13人) R3 6人(延べ38人) ・運営費補助金 R2 840,000円/年 R3 1,260,000円/年	【目標】 妊婦に対し妊婦健康診査事業の継続受診及び妊娠期の母性支援の充実を図る 【目標数値】 妊婦健康診査受診者数 年6人	健康福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	—	1,260,000				1,260,000	A	【担当課意見】 妊婦健診が診察日増加により、受診しやすくなり継続受診にもつながっている。 【今後の見通し】 妊婦の健康の保持増進とともに、産後健診の実施により継続支援につながるため、引き続き周知を図る。
5 産後ケア推進事業	R3	生後1年未満の母子を対象に、家族等からの援助を受けることが出来ない者で、産後の心身に不調がある者や強い育児不安がある者が母子で委託する助産所に宿泊をして、育児相談や心身の休息の機会の提供を受ける。	県内5箇所の助産所で利用できる。必要な母子がいつでも利用できるように、母子健康手帳交付時、ホームページ及びたけっこダイアリー等を活用して事業の周知を図った。 【利用実績】 0件(R2年度:1件)	【目標】 ・産婦の身体的、精神的負担の軽減や育児の手技の理解 ・児童虐待の予防 【目標数値】 5件	健康福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	—	0				0	B	【担当課意見】 利用者は少ないが、産後うつや児童虐待予防のため継続して実施する必要がある。 【今後の見通し】 新型コロナウイルス感染症の影響により産後うつの発症者が増加している。産後の身体的・精神的な負担を軽減し、子育てしやすい環境を醸成するため、必要な人が本事業を利用できるように、引き続き周知を図る。
6 子育て世代包括支援センター事業	R3	妊娠から子育て期にわたるまでの総合的相談支援を実施する。	定期的に面談を実施し、悩みや不安に対して早期に、予防的に支援した。また、関係機関と子どもを見守る視点を共有し、連携して取り組んだ。 【支援状況】 ●支援ニーズの高い妊産婦に対して漏れなく支援した。 ●詳細 R2/R3 ・母子健康手帳交付時の相談対応103件/88件 ・妊産婦等の訪問63件/41件 ・妊産婦等の相談46件/35件 ・妊産婦等の電話相談266件/228件 ・支援計画の立案・実施18件/16件	【目標】 子育てしやすい環境の醸成につながることに子どもの健やかな成長につながる。 【目標数値】 支援ニーズの高い妊産婦への支援実施の割合 100%	健康福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	—	3,986,300	2,229,000	1,199,736		557,564	A	【担当課意見】 少子化の影響で支援件数が減少したが、全ての妊産婦に漏れなく、切れ目なく支援した。特に、支援ニーズの高い妊産婦には個別支援計画を立案し、対象者に応じた支援を提供した。 【今後の見通し】 本事業の周知を図り、誰もが気軽に相談できる環境を整えるとともに、妊娠前から子育て期にわたり漏れなく、切れ目のない支援を継続する。

個別事業シート

基本目標2 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

施策の方向性 少子化対策 ③子育て支援

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 乳幼児等医療費助成事業	R3	乳幼児・児童の疾病の早期発見と治療を促進し、健やかな育成を図るため、医療費の助成を実施している。	県の助成制度(就学前児童に関わる入院、通院時の自己負担額の一部助成)に加えて、市独自の施策として、通院は小学6年生修了時まで、入院は中学3年生修了時まで自己負担額の一部の助成を実施。	【目標】 乳幼児・児童の疾病の早期発見と治療を促進し、健やかな育成を図る。 【目標数値】 なし	市民課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	育てる"ちから"づくりの推進	31,521,596		8,324,000		23,197,596	-	【担当課意見】 県の助成対象(就学前児童)に加え、市独自の施策として、通院は小学6年生修了時まで、入院は中学3年生修了時まで助成を実施している。 【今後の見通し】 引き続き取組を継続して実施する。
2 放課後児童クラブ事業	R3	就労等により昼間家庭に保護者のいない児童を対象に、授業が終わった後の遊び及び生活の場を提供し、支援員の活動支援のもと児童の健全育成を図る。 【対象児童】 小学校1～6年生まで 【実施箇所】 市内9校のうち8校区で実施。(直営5箇所、委託3箇所) 【定員】350人 【開設時間】 平日14:00～18:00、学校休業日8:00～18:00(日、祝、お盆、年末年始を除く) 【保護者負担金】児童一人当たり月額3,000円	市内8箇所10教室で放課後児童健全育成事業を実施した。また、支援員の資質の向上のため、支援員研修会を実施した。	【目標】 保護者の就労支援と児童の健全育成を図るため、放課後児童健全育成事業を実施する。 【目標数値】 待機児童 0人	社会福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	-	66,683,510	22,227,000	22,064,000	7,770,000	14,622,510	B	【担当課意見】 子どもが減少しているにもかかわらず、児童クラブによっては、定員を超え受け入れられない状況が発生した。 【今後の見通し】 子どもが減少していることなどにより、待機児童は0人になる見込みである。
3 病児・病後児保育事業	R3	保護者が勤務等の都合により自ら看護を行うことが困難な時に、病院等に付設した専用施設で病中や病気の回復期にあるこどもを一時預かりをする。	委託により実施した。 ○病児対応型(1施設) ポピー(米田小児科) ○病後児対応型(1施設) さくらんぼ(ふれあい館ひろしま)	【目的】 病児について、病院等に付設された専用スペース等において、看護師等が一時的に保育を実施する。 【目標数値】 なし	社会福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	-	8,998,139	3,358,000	2,997,000	4,800	2,638,339	-	【担当課意見】 保護者の保育ニーズに適切に対応し、安心して子育てができる環境の充実につながっている。 【今後の見通し】 子育てと就労の両立を支援するため、継続して取り組む。
4 一時預かり事業	R3	安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図るため、家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児を、認定こども園、保育所、地域子育て支援拠点等において、一時的に預かり、必要な保育を行う。	公立保育所(1箇所)・公立認定こども園(3箇所)・私立認定こども園(5箇所)・ふれあい館ひろしまの10箇所	【目標】 保護者の一時的な保育ニーズに応えるため、一時預かり事業を実施する。 【目標数値】 なし	社会福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	-	7,636,000	2,545,000	2,545,000		2,546,000	-	【担当課意見】 保護者の保育ニーズに適切に対応し、安心して子育てができる環境の充実につながっている。 【今後の見通し】 事業の周知を図るとともに、保護者の保育ニーズに応じた事業の充実に努めていく。
5 地域子育て支援拠点事業	R3	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。	つくしんぼ(特定非営利活動法人ふれあい館ひろしま)・ミルクハウス(社会福祉法人明星福祉会)の2箇所	【目標】 地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点の設置を推進することにより、地域の子育て支援機能の充実に図り、子育ての不安感を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援する。 【目標数値】 子供一人あたり利用回数 R6:27.5回/人	社会福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	-	18,017,924	6,005,000	5,905,000		6,107,924	C	【担当課意見】 乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てを支援している。 【今後の見通し】 事業の周知を図るとともに、引き続き事業の充実に努めていく。
6 ファミリーサポートセンター事業	R3	乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の保護者を対象として、児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と、当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行い、地域における育児の相互援助活動を推進する。	竹原市社会福祉協議会に委託し実施した。	【目標】 地域における育児の相互援助活動を推進するため、会員数の増加を図る。 【目標数値】 登録会員数 R6:413人	社会福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	-	4,560,325	1,200,000	1,200,000		2,160,325	A	【担当課意見】 登録会員数も増加しており、子育て中の保護者には必要な事業である。 【今後の見通し】 子育てと就労の両立を支援するため、継続して取り組む。

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
7 延長保育事業	R3	安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図るため、保護者の勤務条件や家庭の事情などにより、支給認定時間を超えて、引き続き保育所・認定こども園を利用する児童に対し、早朝・夕方の保育を実施する。 早朝 7:00～7:30 (3園) 夕方 18:30～19:00 (全園) (保育短時間の場合は、利用時間以降)	市内すべての保育所及び認定こども園において延長保育を実施した。	【目標】 就労と子育ての両立を支援するため、保護者のニーズを踏まえ、保育所・こども園で延長保育を実施する。 【目標数値】 なし	社会福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	—	2,302,000	767,000	767,000		768,000	—	【担当課意見】 保育所、こども園において受け入れ体制が整っており、必要性に応じ利用可能となっている。 【今後の見通し】 子育てと就労の両立を支援するため、継続して取り組む。
8 産婦健康診査事業	R3	産後2週間、産後1か月など出産後まもない時期の産婦に対する健康診査(母体の身体的機能の回復や授乳状況及び精神状態の把握等)の費用を助成することにより、産後の初期段階における母子に対する支援を強化し、妊娠前から子育て期にわたる切れ目のない支援体制を整備する。	母子手帳交付時に産婦健康診査の補助券(2枚)を交付した。また、令和2年度中に母子健康手帳交付者のうち分娩予定日が令和3年4月以降の者は補助券を送付した。産後うつ病質問票の得点が高い産婦は医療機関と連携し、早期に支援した。 ●産婦健康診査受診者数(延)142件	【目標】 産後うつ予防や新生児への虐待予防等を図る 【目標数値】 受診者数(延)230件	健康福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	—	711,210	350,130			361,080	B	【担当課意見】 少子化の影響で受診者数は目標数値を下回った。しかし、産後うつ質問票の得点が高い産婦に医療機関と連携し、早期に支援を行うことができた。 【今後の見通し】 心身の不調のある産婦を漏れなく支援できるように引き続き医療機関と連携し、事業を実施する。
9 たけはらっこネウボラ育児支援強化事業	R3	未就園児及びその保護者を対象に、遊びの場(教室の名称:ほかほか広場)を開始する。実施は週1回、季節の行事やリズム遊び、食育等のプログラムを設定する。母子保健コーディネーター(助産師)及び子育て支援コーディネーター(保育士)が従事し、保護者が子育てについて相談しやすい環境を整える。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮して中止した回もあったが、概ね予定通り実施した。 ●開催回数27回 参加者数(延)164人	【目標】 遊びの場を設けることで保護者が子育てについて相談しやすい環境を構築し、子育て期の支援を強化する。 【目標数値】 開催回数40回	健康福祉課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	—						B	【担当課意見】 新型コロナウイルス感染症の感染防止目的で中止した回があったため目標とする開催回数を下回った。しかし、個別で親子に来所してもらい、遊びの場の提供と子育ての相談に応じた。 【今後の見通し】 本事業の更なる周知を図り参加を促すとともに、誰もが相談しやすい環境を整える。

基本目標別達成状況総括表

基本目標3	
<p>数値目標</p> <p>○平均自立期間(要介護2以上)※1 男性 79.5歳(R1)→ <u>79.8歳(R3)</u> →79.8歳(R6) 女性 84.0歳(R1)→ <u>85.1歳(R3)</u> →84.2歳(R6) ※参考指標:要介護認定率 男性 2.67%(R1) → 2.87%(R3) 女性 6.94%(R1) → 7.33%(R3)</p> <p>○市の女性人口に対する給与収入のある女性人数の割合 41%(H30)→ <u>41.5%(R3)</u> →46%(R6)</p> <p>○市の65歳以上人口に対する給与収入のある65歳以上人数の割合 25%(H30)→ <u>23.9%(R3)</u> →25%(R6)</p> <p>○地域交流センターの利用人数 125,775人(H30)→ <u>55,111人(R3)</u> →140,000人(R6)</p> <p>○観光消費額 2,847百万円(H30)→ <u>2,159百万円(R3)</u> →3,060百万円(R6)</p> <p>※1 平均自立期間とは、「日常生活動作が自立している平均」を指標とした健康寿命を算出したもので国保データベースシステムにおいて毎年算出する。</p>	
<p>数値目標に対する総合評価</p> <p><u>平均自立期間(要介護2以上)</u> ○前年度と比較し、男性(79.8%)、女性(85.0%)ともに横ばいで推移している。 ○要介護2以上が増加しており、1号被保険者数の減少もあって、要介護認定率が前年度と比較(男性2.83%、女性6.9%)し、上昇している。</p> <p><u>市の女性人口に対する給与収入のある女性人数の割合</u> ○前年度(43.5%)と比較し、減少している。 ○女性人口は、令和2年6月(12,953人)から令和3年6月(12,661人)で292人減少する中、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、働く場所が減少したことが要因として考えられる。</p> <p><u>市の65歳以上人口に対する給与収入のある65歳以上人数の割合</u> ○前年度(24.28%)と比較し、減少している。 ○65歳以上人口は、令和2年6月(10,156人)から令和3年6月(10,147人)で横ばいであるものの、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、働く場所が減少したことが要因として考えられる。</p> <p><u>地域交流センターの利用人数</u> ○新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの中止・縮小や外出を控える傾向にあることから、前年度(54,008人)と同水準となった。</p> <p><u>観光消費額</u> ○新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの中止・縮小や外出を控える傾向にあることから、前年度(2,140百万)と同水準となった。</p>	

地域力の強化					
○①健康まちづくりの推進					
(KPI)		H30	現在値	R6	評価(KPIの達成度、今後の対策など)
1	平均自立期間(要介護2以上)男性	79.5歳(R1実績)	79.8歳	79.8歳	○令和3年度は、男女ともに数値が向上した。 ○平成30年度から短期集中予防サービス(通所型・直営)及び介護予防ケアマネジメントを実施し、要介護(要支援)状態の軽減・悪化防止に取り組んでいる。また、地域においては介護予防教室を実施し、またその後も継続して介護予防の取組ができる「通いの場」の増設支援や専門職による継続支援も行っている。 ○令和3年度は新たに7か所の自主グループができ、令和3年度末で高齢者人口の8.6%が参加している。特定健診、がん検診、歯周疾患検診等への受診勧奨を行い、疾病の早期発見、早期治療に取り組んでいる。また、健康・栄養・歯科相談や、健康教育(生活習慣病予防講座等)や、ふくし健康まつりなどのイベントによる啓発などにより健康づくりに取り組んでいる。 ○これらの取組により、平均自立期間は平成30年度比で男女とも上昇しており、引き続き取組を継続する。
2	平均自立期間(要介護2以上)女性	84.0歳(R1実績)	85.1歳	84.2歳	
○②多様な人材の活躍促進					
(KPI)		H30	現在値	R6	評価(KPIの達成度、今後の対策など)
1	市の女性人口に対する給与収入のある女性人数の割合	41.0%	41.5%	46.0%	○令和3年度は、前年度と比較し、割合が減少(43.5%→41.5%)している。 ○令和3年度も前年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止のため各セミナーなどの周知イベントが開催出来なかった。令和4年度には市内企業や自治会等を対象に「女性」をテーマにしたセミナーを開催するなど、令和4年4月からスタートした第3次たけはら21男女共同参画プランに基づいた取組を推進する。 ○令和3年度は、前年度と比較し、割合が減少(24.28%→23.9%)している。 ○令和3年5月に地域の関係機関と「竹原市生涯現役促進地域連携協議会」を設立し、高齢者の雇用・就業促進に向けた地域の取組を支援する厚生労働省の「生涯現役促進地域連携事業」を受託した。 ○引き続き、高齢者が健康で働くことができるよう、健康対策の取組を推進するとともに、高齢者が活躍できる雇用・活動の場を創出するための取組を行う。
2	市の65歳以上人口に対する給与収入のある65歳以上人数の割合	25.0%	23.9%	25.0%	
○③地域を支え活躍する人材の育成・環境づくり					
(KPI)		H30	現在値	R6	評価(KPIの達成度、今後の対策など)
1	コミュニティスクール制度を導入し、かつ、地域学校協働本部やコミュニティスクールなどの仕組みを活かして、保護者や地域の人の協働による活動を行ったと答えた学校割合	41.0%	69.4%	46.0%	○令和3年度、市内全ての学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールをスタートさせた。そのため、数値は上昇した。しかしながら、小学校は88.8%と高い数値であるが、中学校(義務教育学校を含む)も特色ある活動を推進しているものの、50%であった。コロナ禍の状況で、地域での活動の機会が減少していることも要因の一つと考える。 ○引き続き、各校特色ある地域とともにある学校づくりの推進のもと、学校運営協議会を核とした、地域との協働的な活動を計画、実施できるよう促していく。 ○小学校の国語では、県平均を上回ったものの、小学校算数及び中学校国語、数学は県平均を下回った。特に中学校ではその差が大きい。取組の効果が児童生徒の学力向上につながっていないと考えられる。各校では結果を分析し、課題を克服するための具体策を「改善計画」にまとめ、取組を行った。また、県平均より2ポイント以上下回った学校については、指導主事が訪問し、授業改善や進捗の確認を行った。 今後必要となる「個別最適な学び」を充実させ、個の実態に即した指導を工夫していく。 ○今後、各学校において、改善計画に基づいた具体的な取組とともに、学校全体で基礎基本を定着させる取組を継続していく。(ドリルタイムなど)また、一人1台端末を効果的に活用するなど、個別最適な学びにつながる方策も構築していく必要がある。さらに、指定校の研究成果を市内の学校に還元する場を設定することで、指導方法や単元づくり等の改善が図られるようにしていく。
基礎学力が定着している児童生徒の割合					
2	広島県平均比較	小学校国語	0	1.0	3.0
		小学校算数	▲0.5	▲1.0	2.0
		中学校国語	▲3.0	▲4.0	1.0
		中学校数学	▲4.5	▲2.0	0.5
		中学校英語	-	-	2.0
3	「地域や子供会などの行事に参加している」と答えた児童生徒の割合(県調査)	73.9%(R1)	67.5%	79.0%	○コロナ禍の状況の中で、多くの地域の行事や子供会活動が中止となったことで、地域と関わる機会が減少していると考えられる。しかし、県の平均値が45.8%であることから、本市においては、地域や子供会などの行事に積極的に参加している状況であると捉えることができる。 ○今後はコロナ禍による自主規制等の緩和により、地域の行事や活動が実施されることに伴い、積極的な参加を促し、地域と関わる機会の創出を行う。 ○前回調査時よりも数値は向上している。また、県の平均値85.2%であることから、本市における児童生徒の地域へ愛着度は高い。各学校における地域を題材とした教育内容の創造及び実践を通して、児童生徒の地域への愛着を生み出していると考えられる。 ○引き続きコミュニティ・スクールを通して、地域とともにある学校づくりを推進し、地域の子供たちを地域で育てていく風土を醸成していきたい。
4	「自分の住んでいる地域が好き」と答えた児童生徒の割合(県調査)	86.3%(R1)	90.8%	89.0%	
5	地域交流センターの利用人数	125,775人	55,111人	140,000人	○令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年間を通じて各地域交流センターにおける行事等の中止が発生し、利用できない期間も何度かあったため、令和2年度に続き、利用人数が大幅に減少した。 ○引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が見込まれるが、新しい生活様式に対応した地域活動の促進のため、地域交流センターでWi-Fi環境を整備した。デジタル化への取り組みも促進していく。 ○令和3年度も令和2年度に引き続いて、地域の活動を担う人材を育成するため、県が主催する生涯学習に関する研修会に地域交流センター職員の参加を促し、受講者は累計で33人となった。 ○引き続き、県モデル事業(学びからはじまる地域づくりプロジェクト)を活用し、地域と学校が連携した取組ができるようなモデルの構築を目指すなかで、コーディネーターの育成を図る。
6	地域人材養成講座受講者数【累計】	-	33人	50人	
○④企業等との連携強化					
(KPI)		H30	現在値	R6	評価(KPIの達成度、今後の対策など)
1	連携事業数	40件	79件	66件	○令和元年度は広島ドラゴンフライズ及び生協ひろしまと包括連携協定をそれぞれ締結した。令和2年度は広島広域都市圏の事業数が増加したことに加え、竹原市・三原市・尾道市・西日本旅客鉄道株式会社広島支社と関係人口創出に関する協定、三原農業協同組合と地域見守り活動に関する協定、日本郵便株式会社竹原市内郵便局と包括連携協定をそれぞれ締結した。令和3年度は大塚製薬(株)、明治安田生命保険相互会社の各企業及び県立広島大学と包括連携協定をそれぞれ締結した。 ○引き続き、本市の抱える課題解決に対する取組を推進するため、各種事業体との連携を積極的に進める。
○⑤関係人口の創出・拡大					
(KPI)		H30	現在値	R6	評価(KPIの達成度、今後の対策など)
1	ふるさと納税件数	2,750件	5,271件	4,200件	○他自治体との競争環境激化や寄附者の利便性向上が求められている中で、令和3年度は掲載ポータルサイトの追加、返礼品の拡充やサイト内での広告を行い、間口拡大による新規寄附者の獲得とふるさと納税を通じた本市のイメージアップを図ったことで、件数は増加している。 ○引き続き掲載ポータルサイトの増加や魅力のある返礼品の開発・追加等により、さらなる寄附金額の増加やPRを進める。 ○令和2年8月に、本市を応援していただく人達で組織する「たけはらファンクラブ」を創設したところ、令和4年3月31日時点で、竹原市ゆかりの著名人を始めとする個人会員が990名、法人会員が26社となっており、目標数値を達成している。 ○現在会員の方にはSNSで地域の魅力やイベント情報など竹原市にまつわる様々な情報を発信を行っている。また、会員と地域住民との交流会など本市との関係性が深まる取組を進めていき、より多くの「たけはらファン」の獲得を目指す。
2	たけはらファンクラブ会員数	-	990人	200人	

まちの魅力向上

①歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

(KPI)		H30	現在値	R6	評価(KPIの達成度、今後の対策など)
1	文化4施設(旧森川家住宅・旧松坂家住宅・旧光本家住宅・歴史民俗資料館)入館者数	41,000人	12,000人	64,000人	<ul style="list-style-type: none"> ○文化4施設入館者数については、令和3年度は、令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言の発出や、全国的な旅行・外出の自粛に伴い、大幅に減少したままとなった。(令和元年度:45千人⇒令和2年度11千人) ○各施設では体温表示システムを導入するなど新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、公開を行った。また、市有の歴史的建造物について、民間事業者による社会実験の事業者を募集し、決定した。 ○今後は、各施設で企画展示等を実施し、入館者数の増加を図る。また、市有の歴史的建造物について、民間事業者による社会実験を実施し、評価・分析を行う。
2	市内小学校の文化4施設の社会科見学等による児童来館数	44人(H29)	96人	80人	<ul style="list-style-type: none"> ○社会科見学等による児童来館数については、新型コロナウイルス感染症の影響により前年度から減少したものの目標値を上回ることができた。 ○引き続き、市職員による施設の案内・説明等の取り組みを実施し、社会科見学等による利用促進を図るとともに、本市の歴史資産に対する誇りや愛着の醸成に努める。
3	景観まちづくり団体数	0団体	0団体	2団体	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度は、認定団体数は0団体であった。 ○令和4年2月に竹原市景観条例の制定(令和4年7月施行)、令和4年3月に景観計画の策定などを踏まえ、令和4年度から竹原市独自の景観施策の推進を図る。 ○景観条例施行に伴う、住民説明会の開催や景観ガイドライン作成などにより住民の景観意識醸成を図り、景観条例に基づく景観まちづくり団体の設立など、歴史・文化を活かしたまちづくりを推進していく。

②地域資源を活かした観光・交流の更なる推進

(KPI)		H30	現在値	R6	評価(KPIの達成度、今後の対策など)
1	総観光客数(外国人観光客・市内への宿泊者数を含む)	904,000人	564,000人	1,325,000人	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響から、目標値に対し大きく減少している。 ○コロナ禍ではあるが、少しずつ観光客数が回復しつつある。 ○引き続き、アフターコロナの観光客の動向を注視しながら国内・国外の観光客へのプロモーションを実施していく。

個別事業シート

基本目標3 年齢や性別に関わらず多様な人々が元気なまちを
竹原の魅力、個性を活かして交流を拡大する

施策の方向性 地域力の強化 ①健康なまちづくりの推進

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあつての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 介護予防支援事業	R3	高齢者の社会参加への意欲を具体的な活動に結びつけるうえでのきっかけづくりのため、高齢者による介護予防・健康増進に資する活動の実績に基づく支援を行い、高齢者の生きがいづくりを推進する。 ○はつらつ手帳(介護予防手帳)の出席スタンプが基準へ達した人への記念品贈呈等	はつらつ手帳(介護予防手帳:介護予防の自主グループ活動に参加している高齢者に交付している)の出席スタンプが120回となった高齢者に対して(週1回の体操参加を続けて約3年)、自主グループ参加者記念品としてかくや姫商品券500円分を延べ69人に贈呈した。 【実績】 高齢者人口に占める自主グループへの参加者の割合、自主グループの数(第8期介護保険事業計画) R3 8.6%, 50箇所	【目標】 介護予防に取り組む高齢者を増やし、高齢者の社会参加を促進するとともに高齢者の介護予防及び生きがいづくりを推進する。 【目標数値】 高齢者人口に占める自主グループへの参加者の割合、自主グループの数(第8期介護保険事業計画) R3 8.0%, 45箇所 R4 8.5%, 49箇所 R5 9.0%, 53箇所 R7 10.0%, 61箇所	健康福祉課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活力と優しさがあふれるまち 目標像5 誰もがお互いに尊重し合い、いつまでもはつらつと活躍している	—	34,500	9,315	4,313	16,559	4,313	A	【担当課意見】 R3年度は新型コロナウイルス感染症による自粛等の影響もあったが、感染対策を取りながらの活動継続について進めていき、年度内に新たな自主グループが7か所開設した。 【今後の見通し】 引き続き高齢者の社会参加及び介護予防について推進していく。
2 がん検診事業	R3	健康増進法に基づく健康診査事業(主にがん検診)を疾病の早期発見・治療の結びつけ、市民の健康増進を図るため実施する。 ○対象者:40歳以上(ただし、子宮頸がん検診については、20歳以上偶数年齢・乳がん検診は40歳以上偶数年齢) ○内容:胃がん・肺がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がん検診 ○検診の種類:集団検診は特定健診同時実施。医療機関検診は子宮頸がん検診・乳がん検診・大腸がん検診・胃内視鏡検診(R3から開始)を実施。	集団検診は11日間(土曜日含む)実施。医療機関検診は9ヶ月間実施。広報、個別受診勧奨・再勧奨、普及啓発を行った。 要精密検査の受診勧奨を重点的に実施した。 受診率R1実績→R2実績(差) ・胃がん検診 5.1%→4.3% (-0.8%) ・肺がん検診 6.6%→9.5% (2.9%) ・大腸がん検診 7.4%→11.0% (3.6%) ・子宮頸がん検診 20.3%→18.7% (-1.6%) ・乳がん検診 21.0%→19.3% (-1.7%) (※R1対象者は40歳～69歳までであったが、R2から対象者が40歳～74歳に拡大された)	【目標】 疾病の早期発見・早期治療に結びつけ、市民の健康増進を図る。 【目標数値】 胃がん健診 10.0% 肺がん健診 10.0% 大腸がん健診 10.0% 子宮頸がん健診 20.0% 乳がん健診 22.0%	健康福祉課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活力と優しさがあふれるまち 目標像5 誰もがお互いに尊重し合い、いつまでもはつらつと活躍している	—	25,368,483	307,000		2,223,300	22,838,183	B	【担当課意見】 R3年度は、胃内視鏡検診の実施を開始した。また、国保に移行した人に窓口での受診勧奨とハガキでの再勧奨を実施した。 【今後の見通し】 引き続き受診勧奨に取り組むとともに検診体制の整備を進める。
3 健康対策普及事業	R3	国民健康保険被保険者について、特定健康診査、がん検診等を受診することで早期発見・治療に結びつけ、被保険者の健康増進を図るとともに、適正受診を啓発し医療費の適正化を推進する。	特定健康診査 がん検診等費用助成 特定健康診査に加えて、がん検診等の内容を実施 訪問による指導 後発医薬品差額通知 医療費通知 など	【目標】 医療費の適正化 【目標数値】 なし	市民課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活力と優しさがあふれるまち 目標像5 誰もがお互いに尊重し、いつまでもはつらつと活躍している	—	38,306,184		38,306,184			B	【担当課意見】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けたが、事業を実施できた。また、落ち込んだ受診率を令和元年度並みに回復することができた。 【今後の見通し】 今後取組を継続・実施する。
4 生活習慣病重症化予防事業	R3	国民健康保険被保険者の糖尿病罹患者のうち、治療内容から対象者を抽出し、6か月間の指導を行うなど、糖尿病性腎症の重症化を予防するための取組を行う。また、糖尿病の治療中断者などへ医療機関の受診勧奨を行う。	糖尿病性腎症重症化予防 新規指導 前年度終了者支援 治療中断者	【目標】 糖尿病による新規導入の人工透析患者の減少 【目標数値】 なし	市民課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活力と優しさがあふれるまち 目標像5 誰もがお互いに尊重し、いつまでもはつらつと活躍している	—	3,597,000		3,597,000			A	【担当課意見】 H26年度の事業開始からのR2年度までの指導終了者49人中の透析移行者は1人であり、事業の効果が出ているといえる。 【今後の見通し】 今後取組を継続・実施する。
5 被保護者健康管理事業	R3	被保護者の糖尿病罹患者のうち、治療内容から対象者を抽出し、3か月間の糖尿病性腎症予防プログラムを行うなど、重症化を予防するための取組を実施した。また、市が行う健康診査への受診勧奨を行った。	レセプトデータ化 ポテンシャル分析 糖尿病性腎症対象者リスト作成 予防プログラム実施 完了報告書作成	【目標】 糖尿病患者の重症化を予防し、人工透析に至ることを抑制する 【目標数値】なし	社会福祉課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活力と優しさがあふれるまち 目標像5 誰もがお互いに尊重し、いつまでもはつらつと活躍している		3,696,000	2,772,000			924,000	B	【担当課意見】 対象者の病状等のやや改善がみられている 【今後の見通し】 今後取組を継続・実施する。

個別事業シート

基本目標3

年齢や性別に関わらず多様な人々が元気なまちを
竹原の魅力、個性を活かして交流を拡大する

施策の方向性

地域力の強化 ②多様な人材の活躍促進

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 地域生活支援体制整備事業	R3	障害者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、相談、体験の機械、緊急時の対応など、地域の事業者が機能を分担して面的な支援を行う体制の構築を図る。	5法人13事業所と緊急時の受入れ等対応に関する委託契約を締結している。障害者自立支援協議会のワーキンググループで、市内事業所の実施状況等の情報共有や事例検討を行った。令和3年度の運用状況と検証を行った。	【目標】 障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能を整備し、障害者の生活を地域全体で支えるため 【目標数値】 運用状況の検証及び検討回数 年1回	健康福祉課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活力と優しさがあふれるまち 目標像5 誰もがお互いに尊重し合い、いつまでもはつらつと活躍している	—	0				0	A	【担当課意見】 年度末に運用状況と検証を行うことが出来た。 【今後の見通し】 引き続き、緊急時の受入れが必要な障害者の登録を進めるとともに、体験の機会などの取組を進める。
2 精神障害者医療費事業	R3	精神障害者が自立した地域社会の一員として生活できる環境を整えるため、精神疾病や身体合併症の寛解状態が継続するよう、一般科を含む通院医療費の一部を負担する。	精神保健手帳1級所持者で自立支援医療受給者(精神通院医療)に対し、一般科を含む通院の一部負担金が200円/日(月4日)となるよう、医療費の助成を行った。 対象者 4名 医療費助成 14,690円	【目標】 精神障害者が自立した地域社会の一員として生活できる環境を整えるため、精神疾病や身体合併症の寛解状態が継続するよう、一般科を含む通院医療費の一部を負担する。 【目標数値】	健康福祉課	将来像3 誰もがいつまでもいきいきと自分らしく輝く活力と優しさがあふれるまち 目標像5 誰もがお互いに尊重し合い、いつまでもはつらつと活躍している	—	1,664,090		213,000		1,451,090	—	【担当課意見】 対象となる方に対し、申請勧奨を行い、助成を行った。 【今後の見通し】 精神障害者が自立した地域社会の一員として生活できる環境を整えるため、継続して実施する。

個別事業シート

基本目標3 年齢や性別に関わらず多様な人々が元気なまちを竹原の魅力、個性を活かして交流を拡大する

施策の方向性 地域力の強化 ③地域を支え活躍する人材の育成・環境づくり

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 未来の人材育成促進事業(義務教育グローバル化促進分)	R3	竹原市の次代を担う青少年が、外国語によるコミュニケーション能力を高めたり、異文化・自文化理解を深めたりすることで、世界とつながり、ふるさと「たけはら」を広く発信できる人材を育成する。	事業の柱となる「海外派遣研修」の実現が新型コロナウイルス感染症の拡大を受け中止となった。そのため、ハワイ州の中学校とのオンライン交流を行い、異文化に興味や関心を持たせることで、外国語教育の推進を図った。また、市教委主催の「1DAY国内留学」を児童生徒対象に実施することで、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わわせ、今後の学習への意欲を高めることができた。	【目的】市内の生徒が、外国語によるコミュニケーション能力を高めたり、異文化・自文化理解を深めたりすることで、世界とつながり、ふるさと「たけはら」を広く発信できる人材を育成する。 【目標数値】なし	総務学事課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	育てる"ちから"づくりの推進	1,533,058			1,533,058		-	【担当課意見】 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、予定していた取組ができない状況もあったが、やり方や時期を工夫することで実施することができた。 【今後の見通し】 昨年度の参加者の振り返り等を生かし、よりよい内容になるよう工夫改善を行う。また、海外派遣を実施することで市内児童生徒に還元を図り、目的が達成できるようにする。
2 コミュニティ・スクール導入事業【再掲】	H31~R3	市内の小、中、義務教育学校において、地域とともにある学校づくりを推進するため、令和3年度、全ての学校へ学校運営協議会を設置し、「コミュニティ・スクール」をスタートさせる。	市内全校におけるコミュニティ・スクールの推進に向け、学校運営協議会を設置し、67名の学校運営協議会委員を委嘱した。学校運営協議会委員や教職員、保護者を対象とした、市主催研修等を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったが、市教育委員会の担当者が各校の学校運営協議会へ参加し助言等をしたり、管理職研修会等で指導講話を行った。	【目標】令和3年度、全ての竹原市立学校に学校運営協議会を設置する。 【目標数値】なし	総務学事課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	育てる"ちから"づくりの推進	259,800				259,800	A	【担当課意見】 令和3年度は、コロナ禍で学校運営協議会の開催や研修等の実施に制限があったものの、各学校において工夫しながら、学校運営協議会としての動きを進めることができた。 【今後の見通し】 令和4年度は、引き続き、各学校運営協議会へ市教育委員会担当者が出席し、コミュニティ・スクールの円滑な推進に向けた支援を行っていくとともに、研修会等の実施を計画、実施する。
3 地域交流センター事業	R3	市内13地域交流センターにおいて、各種教室・講座等の開催を通じ、地域住民に対し「集い、学び、つながる」場を提供し、生涯学習の推進を図る。	・市内13地域交流センターにおいて、各種教室・講座等を開催し、地域住民に対し「集い、学び、つながる」場を提供し、生涯学習の推進を図った。	【目標】各種教室・講座等開催 【目標数値】市内13地域交流センター	地域づくり課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像3 市民一人一人が自ら学び、様々な場面で協力しながら活躍している	育てる"ちから"づくりの推進	63,667,197				63,667,197	A	【担当課意見】 -コロナ禍の中、各地域交流センターにおいて、閉館期間、人数制限があり、各種教室・講座等を開催することが難しくかったが、地域住民に対し「集い、学び、つながる」場を提供し、生涯学習の推進を図ることが出来た。 【今後の見通し】 -地域のニーズに合った教室講座を開き、継続的な生涯学習の場の提供を行うため、計画を検討する。
4 学びから始まる地域づくりプロジェクト事業	R3~R4	社会教育・生涯学習を通じた地域の活動とコミュニティ・スクールの取り組みを連携させ、市立学校全校に導入しているコミュニティ・スクールの充実を目指す。	忠海をモデル地域として、事業計画を検討するとともに、児童生徒向けの教室・講座を忠海東地域交流センター、忠海地域交流センターそれぞれで実施し、地域の子どもたちとの繋がりを強化した。	【目標】コミュニティ・スクールへの取組に対して、地域側からのアプローチモデルを構築し、市内全域へ波及させる。 【目標数値】なし	文化生涯学習課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像3 市民一人一人が自ら学び、様々な場面で協力しながら活躍している	育てる"ちから"づくりの推進	0					-	【担当課意見】 新型コロナウイルス感染症の影響が見通せない中で、学校との連携促進に課題があったが、地域交流センターの活動の中で児童生徒との繋がりがづくりを推進できた。 【今後の見通し】 学校との連携を図るため、校長等と協議するとともに、学校からの要求に対応できるよう、地域と共に取り組んでいく。
5 ICT活用教育整備事業	R3~	GIGAスクール構想の実現に向けICTを活用した基礎学力向上を図るため、市内小中学校等において教師用のデジタル教科書を導入し、児童生徒の定着を図る。	小学校・中学校・義務教育学校にデジタル教科書を整備	【目標】基礎学力が定着している児童生徒の割合(全国学力学習状況調査通過率の県平均比較) 【目標数値】H30(現在値)=[小学校]国語0.0%、算数-0.5%、[中学校]国語-3.0%、数学-4.5% R5=[小学校]国語3.0%、算数2.0%、[中学校]国語1.0%、数学0.5%、英語2.0% R10=[小学校]国語5.0%、算数5.0%、[中学校]国語5.0%、数学5.0%、英語5.0% ・学力調査の結果全国平均3ポイント以上 【目標】ICT機器活用度調査 【目標数値】R1(現在値)=小学校1116時間、中学校551時間 R5 小学校1200時間、中学校800時間	総務学事課	将来像2 "文教のまちたけはら"の精神を受け継ぎ、地域を支え、世界中で活躍する人々を輩出するまち 目標像2 子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されている	育てる"ちから"づくりの推進	1,586,310円	1,523,757円			62,553円	B	【担当課意見】 1人一台端末の整備により、端末を活用することによる「個別最適な学び」のある授業を目指している。デジタル教科書の導入により、複数の資料を短時間で提示したり、図形を展開し多面的から見たりするような学習など、紙媒体では難しい、効果的な指導が可能となっている。 【今後の見通し】 今後、児童生徒の教科書がデジタル教科書になる方向性も示されている。子供たちの発達や特性、教科の特色を生かし、学習方法が選択できるよう、活用方法の充実を図っていく。

個別事業シート

基本目標3 年齢や性別に関わらず多様な人々が元気なまちを竹原の魅力、個性を活かして交流を拡大する

施策の方向性 地域力の強化 ④企業等の連携強化

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)	
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財			
1 広島広域都市圏連携事業	R3	広島広域都市圏の自治体間で、圏域全体の発展に寄与することを目的に、様々な交流と連携を推進する。	職員交流・研修、地域間交流事業などの事業を実施した。 ・職員交流・研修(R2年4月～R4年3月) ・イベント情報誌「り～ぶら」発行 夏号(令和3年6月1日発行)、秋号(令和3年9月1日発行)、冬号(令和3年12月1日発行)、春号(令和4年3月1日発行)	【目的】 地域資源を積極的に活用し、行政区域を越えた連携の下に、まちの活性化と産業・経済の活力増進、雇用の拡大を図る。 【目標数値】 なし	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	33,880					33,880	B	【担当課意見】 令和3年度には、職員交流・研修、地域間交流事業などの事業を実施した。 【今後の見通し】 令和4年度においても、引き続き各種事業体との連携を積極的に進める。
2 広島中央地域連携中核都市圏連携事業	R3	広島中央地域連携中核都市圏(呉市、竹原市、東広島市、江田島市、海田町、坂町、熊野町、大崎上島町)全体の一体感の醸成や圏域内住民の交流及び情報発信を行う。	広島中央地域連携中核都市圏の情報誌を「海陽彩都」発行した。(令和3年4月発行、令和3年10月発行)	【目標】 域内の交流人口の増加を図る。 【目標数値】 なし	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	165,000					165,000	B	【担当課意見】 令和3年度は、圏域内の情報誌「海陽彩都」を発行した。 【今後の見通し】 令和4年度においても、引き続き、情報発信を行う。
3 広島臨空広域都市圏振興協議会連携事業	R3	広島空港をとりまく4市2町が相互に密接に連携し、空港から臨空都市圏への誘客を図るため、各種観光メニューの造成や、PR活動を実施する。	観光バスツアー、多言語パンフレットの作成、ふれあい秋まつりなどの事業を実施した。また、臨空エリア活性化のため、広島空港株式会社とパートナーシップ協定の締結を行った。 ・観光バスツアー(R4年3月26日、27日) ・広島国際空港株式会社との連携協定締結(R3年9月20日)	【目標】 圏域内の4市2町が連携して事業を行うことにより、圏域全体の振興発展を図る。 【目標数値】 なし	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	328,000					328,000	B	【担当課意見】 令和3年度は、ふれあい秋まつり、観光バスツアー、多言語パンフレット作成などの事業を実施した。 【今後の見通し】 令和4年度においても、引き続き、広島空港空港株式会社とも連携のもと、圏域全体の振興発展を図るための事業を実施する。
4 広島ドラゴンフライズ・生協広島等包括連携事業	R3	竹原市と広島ドラゴンフライズは、双方の発展につなげることを目的に連携協定を締結し、竹原市のPRを行うとともに、広島ドラゴンフライズのファン拡大を図る。	広島ドラゴンフライズによる学校訪問などを実施した。 ・学校訪問(令和3年7月15日竹原西小学校、仁賀小学校) ・広島ドラゴンフライズ応援ツアー(R4年2月5日、令和4年3月27日)※新型コロナウイルス感染症の影響により中止	【目標】 竹原市、広島ドラゴンフライズが有する資源を活用し、地域活性化を図り、双方の発展につなげる。 【目標数値】 なし	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	93,180					93,180	B	【担当課意見】 令和3年度は、広島ドラゴンフライズによる学校訪問を実施した。応援ツアーについては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 【今後の見通し】 令和4年度は、応援ツアーの実施、広島ドラゴンフライズの選手による、竹原市のPR事業を実施する。

個別事業シート

基本目標3 年齢や性別に関わらず多様な人々が元気なまちを竹原の魅力、個性を活かして交流を拡大する

施策の方向性 地域力の強化 ⑤関係人口の創出・拡大

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあつての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 シティプロモーション事業【再掲】	R3	市民のまちへの誇りと愛着を高めるとともに、市内外の人々から「選ばれるまち」となり、本市に「訪れたい」「関わりたい」「住みたい」人を増やすため、各種シティプロモーション事業を実施する。	「たけはらファンクラブ」の創設・運営、広島ドラゴンフライズとの連携、わがまち魅力発信隊による本市のPR実施を実施した。	【目的】 市民のまちへの誇りと愛着を高めるとともに、市内外の人々から「選ばれるまち」となり、本市に「訪れたい」「関わりたい」「住みたい」人を増やす。 【目標数値】 たけはらファンクラブ加入者数 R4.3(現在値)=990, R6=200 転出超過数 H30=320人, R6=144人	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	呼び込む"ちから"づくりの推進	1,078,925			1,078,625	300	B	【担当課意見】 たけはらファンクラブについて、SNSで地域の魅力やイベント情報など竹原市にまつわる様々な情報を発信を行った。会員と地域住民との交流会については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 【今後の見通し】 「たけはらファンクラブ」については、会員と地域住民との交流会など本市との関係性が深まる取組を進めていく。また、広島ドラゴンフライズとの連携事業やわがまち魅力発信隊による本市のPR事業に関しては引き続き継続して行う。
2 ふるさと納税推進事業	R3	ふるさと納税に係る他自治体との競争環境激化や寄附者の利便性向上が求められている中で、新規ふるさと納税プラットフォームの追加及び返礼品の拡充等を行うことにより、歳入増加と市のPRを図る。	新規プラットフォームの追加に伴う間口拡大による新規寄附者の獲得と返礼品の追加、サイト内での広告を行い寄附金額の増加及び市のPRが図ることができた。	【目的】 寄附金額の増加及び竹原市のPRを図る。 【目標数値】 70,000,000円	総務課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	83,638,280				83,638,280	A	【担当課意見】 R3年度も引き続き、新規プラットフォーム等の追加や広告を行うことにより寄附額の増加やPRに大きく貢献することができた。 【今後の見通し】 さらなるプラットフォームや返礼品の開発・追加を行いながら、メールマガジン等の情報発信を行い寄附金額及び関係人口の増加を図る。
3 関係人口及び移住・定住人口創出事業(再掲)	R3	移住に関心がある方や竹原市と関わりを持つ方と、先輩移住者や地域住民とのつながりをつくるため、関係人口及び移住定住人口創出・拡大のイベントを実施する。	地域づくりを実践されている方をゲストに招いたオンラインセミナーを実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、現地ツアーについては、中止となった。	【目標】 関係人口及び移住・定住人口の増加による、地域振興を図る。 【目標数値】 移住者数(施策に関連した者に限る) R4(現在値)=8人, R2-R6=50	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる		444,000			444,000	0	B	【担当課意見】 令和3年度は、地域づくりを実践されている方をゲストに招いたオンラインセミナーを実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、現地ツアーは中止となった。 【今後の見通し】 令和4年度は、セミナーの実施と併せて、地域を知り・体験していただく現地ツアーを実施する。
4 自治体間等連携・交流事業	R3	関係人口の創出・拡大を図るため、自治体間で双方の資源を活用した連携・交流事業を実施する。	北海道余市町と連携し、ふるさと納税返礼品のコラボ事業を実施した。竹原市、三原市、尾道市、JR西日本の4者が「せとちファンづくり協定」を締結し、関係人口の創出・拡大を図った。東京竹原会30周年記念行事については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。	【目標】 関係人口の創出・拡大を図る。 【目標数値】 たけはらファンクラブ加入者数 R4.3(現在値)=990, R6=200	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる		0			0	0	B	【担当課意見】 令和3年度は、北海道余市町と連携し、ふるさと納税返礼品のコラボ事業を実施した。東京竹原会30周年記念行事については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 【今後の見通し】 令和4年度は、せとちファンづくりプロジェクトとして、農繁期の人手不足をテーマに、地元農家とのマッチングを行い、関係人口の創出拡大を図る。北海道余市町との連携、東京竹原会30周年記念行事については、継続して実施していく。
5 たけはらファンクラブ運営事業(再掲)	R3	本市に愛着を持ち、継続的に多様な形で関わる「関係人口」の創出・拡大を図るため、竹原市を好きで応援してくれる人達で組織する「たけはらファンクラブ」を創設し、ファンクラブでの関わりを通して、まちの賑わい創出やまちづくりの新たな担い手として期待できる人材を確保する。	会員に向けて、SNSで地域の魅力やイベント情報など竹原市にまつわる様々な情報を発信を行った。会員と地域住民との交流会については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。	【目標】 まちの賑わい創出やまちづくりの新たな担い手として期待できる人材を確保する。 【目標数値】 たけはらファンクラブ加入者数 R4.3(現在値)=990, R6=200	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる		54,045			53,745	300	A	【担当課意見】 令和3年度は、SNSで地域の魅力やイベント情報など竹原市にまつわる様々な情報を発信を行った。会員と地域住民との交流会については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 【今後の見通し】 令和4年度は、会員と地域住民との交流会など本市との関係性が深まる取組を進めていく。
6 広島ドラゴンフライズ連携事業(再掲)	R3	竹原市と広島ドラゴンフライズは、双方の発展につなげることを目的に連携協定を締結し、竹原市のPRを行うとともに、広島ドラゴンフライズのファン拡大を図る。	広島ドラゴンフライズによる学校訪問などを実施した。 ・学校訪問(令和3年7月15日竹原西小学校、仁賀小学校) ・広島ドラゴンフライズ応援ツアー(R4年2月5日、令和4年3月27日)※新型コロナウイルス感染症の影響により中止	【目標】 竹原市、広島ドラゴンフライズが有する資源を活用し、地域活性化を図り、双方の発展につなげる。 【目標数値】 なし	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる		93,180			93,180	0	B	【担当課意見】 令和3年度は、広島ドラゴンフライズによる学校訪問を実施した。応援ツアーについては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。 【今後の見通し】 令和4年度は、応援ツアーの実施、広島ドラゴンフライズの選手による、竹原市のPR事業を実施する。
7 わがまち魅力発信隊事業	R3	広島東洋カープの試合日に、マツダスタジアムに「わがまち魅力発信隊」として参加し、市の魅力を発信する。	特産品の販売、「たけはらファンクラブ」のPR、観光ハンフレットの配布、大型ビジョンでの市の魅力の発信を行った。	【目標】 市の魅力発信を行うことにより、交流人口・関係人口の増加を図る。 【目標数値】 なし	企画政策課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる		287,720			287,720	0	B	【担当課意見】 令和3年度には、市の魅力発信に加えて、たけはらファンクラブのPRを行った。 【今後の見通し】 引き続き、市の魅力発信やたけはらファンクラブのPRなどの取り組みを進める。

個別事業シート

基本目標3

年齢や性別に関わらず多様な人々が元気なまちを
竹原の魅力、個性を活かして交流を拡大する

施策の方向性

まちの魅力向上 ①歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 文化財管理事業	R3	・文化財を維持管理し、文化4施設(旧森川家住宅、旧松阪家住宅、旧光本家住宅、歴史民俗資料館)を管理運営する。 ・旧吉井家住宅及びその他文化財を管理する。	・指定文化財管理及び整備委託 ・文化4施設の公開 ・文化4施設に体温表示システムを導入 ・竹原市重要文化財「駕籠」・「弾薬輸送庫」展示の実施 【実績】 R2年度実績 11,000人 R3年度実績 12,000人	【目的】 文化財及び文化施設の適切な管理を行う。 【目標数値】 文化4施設の入館者数64,000人以上	文化生涯学習課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	16,503,734			#####	14,056,214	C	【担当課意見】 令和3年度は、文化4施設で新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、展示の充実に取り組んだ。 【今後の見通し】 引き続き文化財及び文化施設の管理・活用に取り組むとともに、文化4施設でキャッシュレス決済の導入等新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら、企画展示を実施する。
2 日本遺産(北前船寄港地)活用事業	R3	日本遺産「北前船」に関する事業を実施する。	・「北前船」に関する冊子を市立竹原書院図書館、市立学校等に配付 ・北前船日本遺産推進協議会への参加	【目的】 日本遺産「北前船」の普及啓発を行う。 【目標数値】 なし	文化生涯学習課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	500,000				500,000	—	【担当課意見】 令和3年度は、日本遺産「北前船」に関する冊子の配付を行い、啓発を行った。 【今後の見通し】 引き続き、日本遺産「北前船」の普及啓発を行うため、北前船日本遺産推進協議会と連携しながら、展示等の事業を実施する。
3 景観形成推進事業 (景観計画策定事業)	R3	本市の優れた自然景観や歴史・文化景観等の保全・育成と次世代への継承のため景観計画を策定し、市民の景観に対する意識高揚を図り、主体的な景観まちづくりにつなげる。 ・竹原市景観計画の策定 ・景観条例等の策定 など	竹原市景観計画策定委員会及び竹原市都市計画審議会等による景観計画の策定・公表 竹原市景観条例及び竹原市屋外広告物条例の制定	【目標】 令和3年度竹原市景観計画の策定・公表及び景観条例の制定 【目標数値】 景観づくり団体数 2団体	都市整備課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	呼び込む"ちから"づくりの推進	7,194,480				7,194,480	A	【担当課意見】 令和3年度は、令和4年2月議会において竹原市景観条例及び屋外広告物条例を制定し、令和4年3月に竹原市景観計画を公表した。 【今後の見通し】 各種届出制度や景観に資する補助事業など、景観施策を進めることにより市民の景観意識の醸成を図り、景観街づくりを進めるための景観づくり団体設立に向けた取組を進める。 景観審議会による景観重要建築物、公共施設、樹木等の指定に取り組む。
4 歴史的建造物活用社会実験等実施事業	R3	市有の歴史的建造物の活用に関する社会実験を実施する。	民間事業者による社会実験の事業者を公募し、決定した。	【目標】 歴史的建造物の社会実験を実施する。 【目標数値】 なし	文化生涯学習課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	呼び込む"ちから"づくりの推進	990,000				990,000	—	【担当課意見】 令和3年度は、市有の歴史的建造物について、民間事業者による社会実験の事業者を公募し、決定した。 【今後の見通し】 民間事業者による社会実験を実施し、その事業内容等について評価・分析を行う。

個別事業シート

基本目標3

年齢や性別に関わらず多様な人々が元気なまちを
竹原の魅力、個性を活かして交流を拡大する

施策の方向性

まちの魅力向上 ②地域資源を活かした観光・交流の更なる推進

事業名	事業期間	事業概要(全体)	当該年度の取組	事業の目標(あれば目標数値)	所管課	総合計画での位置付け		決算額(円)	財源内訳				評価	備考 (検証にあたっての担当課意見等)
						該当す将来像・目標像	元気プロジェクト		国	県	その他	一財		
1 観光プロモーション事業	R3	訪日外国人観光客をターゲットに観光プロモーションを行い、新たな観光客の誘致及び観光消費額の増加の繋げる。	①マーケティング調査・分析 ②観光プロダクト造成 ③市内周遊・消費喚起促進企画 ④情報発信	【目的】 観光客数及び観光消費額の増加 【目標数値】 ①観光消費額500万円以上 ②広告換算額500万円以上 ③観光消費額500万円以上 ④広告換算額500万円以上	産業振興課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	呼び込む”ちから”づくりの推進	7,998,100	3,998,100			4,000,000	A	【担当課意見】 新型コロナウイルス感染症の影響で事業内容の変更が生じたが、社会情勢に適応した効果的なプロモーションを実施できた。 【今後の見通し】 アフターコロナを見据えた国外からの観光客の誘客も目的に、マーケティング調査を行った結果等を踏まえながら、旅行商品の造成・販売を実施していく。
2 公共無料Wi-Fi事業	R2~R3	広島県観光連盟のデジタル技術等を活用した観光地スマート化推進事業補助金を活用して忠海地区のWi-Fi整備を行い、観光客の受入環境整備を行った。	現在4か所に設置しているHiroshima Free Wi-Fiのうち、忠海駅と忠海港のLTE回線をタネネット回線に切り替え、大久野島にAPを新設した。	【目的】 国内外からの観光客の受入環境整備として、既存のHiroshimaフリーWi-Fiの通信の安定化を図り、同時多数接続にも対応する。 【目標数値】 なし	産業振興課	将来像1 自然・歴史・文化に育まれ、人々に守られ磨かれた資源が人々を魅了する賑わいのあるまち 目標像1 竹原らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれる	—	607,860	53,460			544,400	A	【担当課意見】 竹原駅・町並み保存センター・忠海駅・忠海港・大久野島棧橋に加え、町並み保存地区の文化4施設にHiroshima Free Wi-Fiを設置し、文化4施設ではキャッシュレス決済を導入した。 【今後の見通し】 既設APを適切に維持管理し、サービスを継続する。